

第3回耳納北麓観光拠点施設指定管理者候補者選定委員会会議録

- 日 時：令和3年10月9日（木） 13時00分～14時30分
○場 所：久留米市役所13階1301会議室
○出席委員：吉田洋一委員、石井寿佳委員、橋本浩子委員、大橋勝己委員、中村美喜委員
（全員出席）

1 開会

2 議題

（1）二次審査の審査方法等の説明

（2）二次審査（面接審査）

書類審査を通過した団体の提案内容について、趣旨説明を聴取後、委員による質疑応答を行った。概要は以下のとおりである。

<公益財団法人久留米観光コンベンション国際交流協会>

【委員】入館者数の根拠はなにか。また、事前に予見される特殊要因などは想定しているのか。

【申請者】企画によって、コロナ前の平成30年度をベースに120～150%へ増やす計画を立てている。今後予見されるものとして、インバウンドとバスツアーが戻ってくると考えている。

【委員】それはいつ頃から戻ると考えているのか。

【申請者】インバウンドに関してはここ1～2年ほどは難しいと考えているが、バスツアーなどは現在すでに動き始めている。現在、道の駅くるめへ140万人以上来館されている。その5%でも当館に寄ってもらうことで7万人来訪される計算となるので、道の駅及び駅内の観光案内所と連携しながら入館者を増やしていきたい。

【委員】草野歴史資料館の入館料を無料にする目的はなにか。

【申請者】料金というハードルをなくし、草野歴史資料館へ入館してもらうことで、草野町のことをまず知ってもらうことが目的。

【委員】目的として他にはないのか。

【申請者】料金を徴収する職員の人件費を削減できる。

【委員】音声ガイドの具体的な内容。

【申請者】一例ではあるが、リコーの音声ガイドがアプリを導入することなくQRコードを読み込むことでガイドを受けられる。

【委員】それは個別の展示物に対してガイドを自分のスマートフォン等で受けられるということか。

【申請者】その通り。

【委員】1年で予定している全ての言語を音声ガイド化せずに1言語ごとなのは、予算上の関係か。

【申請者】ご明察のとおり。まずは、日本語その後英語、あとは状況を見ながら行うが、久留米にはタイ、台湾、シンガポールが多いので、それらに対応できるよう

整備していく予定。

【委員】地域との関係性の中で学校との連携が重要だと考えるが、小学校から大学までこれまでの連携と反省点を踏まえた今後の方針はどのようにする予定か。

【申請者】草野歴史資料館においては学芸員の資格取得の際に研修に来ている。山辺道文化館はあまり連携がなく、世界のつばき館についてはつばき祭りの際に草野小学校との連携を行ってきた。しかし、これまで学校との連携ばかりで学生との繋がりが薄かったため、今後は先生方の協力を得ながら連携していきたい。

【委員】これまでの館の運営上の課題と今後の展開はどのようにする予定か

【申請者】草野歴史資料館、山辺道文化館、世界のつばき館のそれぞれの来館者の属性が違っているためPR等のやり方を整理しないといけないと考えている。耳納北麓観光拠点施設とコンベンション本体が離れているため、現在より情報共有を密に行う必要があると考えている。つばき館と草野歴史資料館は、目的が花と歴史と明確なためその部分を強化していくが、山辺道文化館については建物としては素晴らしいが、来館者の目的が不明瞭なところがある。今後は、地域経済を活性化できるように、今回提案した事業を展開していく。

【委員】収益を上げるのではなく、来訪者を増やすことが目的でよろしいか。

【申請者】その通り。それが公益財団法人としての使命と考えている。

【委員】指定管理料以外の収益としてはどのようなものと考えているか。

【申請者】山辺道文化館でのイベント関係を想定している。最初こそ依頼する立場ではあるが、イベントが盛り上がり始めた時にはチャレンジキッチンやキッチンカーの場所代等で収益を上げていきたいと考えている。

【委員】キッチンカーは山辺道文化館のみを想定しているのか。

【申請者】地域と確認をとりながら、世界のつばき館にも設置を想定している。

【委員】主にキッチンカーでの収益強化を考えているということよろしいか。

【申請者】その通り。

【委員】木春食堂の営業強化とは具体的にどこか。

【申請者】現在毎週木曜日のみに行っているため、営業日を木曜日以外にも増やすことや、食事の種類を増やすなどを想定している。

【委員】木春食堂でも収益をあげていくと考えてよろしいか。

【申請者】その通り。しかし、木春食堂もボランティアではあるので、施設として収益がなくても、地域経済が回るような取り組みを行いたい。

【委員】アンケートはこれまでも取っていたのか、または新しく取り始めるのか具体的に説明をお願いしたい。

【申請者】アンケートはこれまでも取っていた。しかし、母数が少なかったため、アンケート数を増やすためにも抽選で商品が当たるような取組を考えている。

【委員】これまでは特典もなく書いてもらっていたということか。

【申請者】その通り。

【委員】資生堂との連携した取組とあるが、どのような取組を想定しているのか。

【申請者】令和3年度の県の事業計画に謳われている中で、資生堂久留米工場を核とした観光需要の創出とあり、資生堂の工場や施設見学などが想定されている。その事業を進める委託業者との連携をした上で、耳納北麓観光拠点施設として出来ることと考えていくこととなるが、まずは県の動向が固まった後の取組

となるので、今後 5 年間で取組を考えていくこととなる。

【委員】現在ではどのような取組を行うかわからないということか。

【申請者】その通り。県が動いているのでそれに合わせていくことになる。

【委員】草野歴史資料館においてデジタルツールの導入と書いているが、デジタル化について今後の展望を教えてほしい。

【申請者】音声ガイドとは別に ipad などを導入し、立体化した展示物が見られるようにしたいと考えている。

【委員】草野歴史資料館にこの間行って見たが、デジタルにはない臨場感のある説明をしてもらえることに価値を感じたが、資料の説明などを行う後継者の育成などは行っているのか。

【申請者】職員各自が館内資料の勉強と OJT を行っている。また、文化財保護課と連携して、資料の説明マニュアルを作成した。

【委員】障害者の方が来られた場合、段差のある施設ではどのような対応を行っているのか。

【申請者】障害者の方が来られた実績はない。来館される場合は事前にご連絡をもらえば、職員も対応が可能である。ただし、突如来館された際に、女性職員のみしかいない場合は対応が難しい。

【委員】入口に介助が可能な旨をわかるように表示してほしい。

【申請者】了承した。

【委員】同じ人を雇い続けることはできないと思うが、人材確保において気を付けていることはなにか。

【申請者】話すことが苦手ではないか、来館者との付き合いは上手く出来るかなどに重きを置いて雇うようにしている。人材確保にはそもそも苦勞をしているが、今後も地元中心に雇っていく予定である。

【委員】契約期間があるのか。

【申請者】65 歳の定年と、継続雇用が 5 年までと定まっている。

【委員長】他に質問がなければ申請者は退出をお願いします。

～申請者退出～

(3) 採点

【委員】採点の項目に無記載とあるが事前に記載されていない部分などは事務局で把握しているか。

【事務局】記載されていない所はないと把握している。しかし、採点の際内容が無記載に近いと感じられたものに関してはこの点数を付けることになる。

【委員】収支計画等が毎年同じ計画になっているが、特殊要因などは想定していないのか。

【事務局】急遽必要になった 10 万円以上の修繕や、大型修繕に関しては久留米市が負担する取り決めになっている。また、新型コロナウイルス感染症や天災など想定外の難しいことに関しては、仕様書【別表 4】のリスク分担表にどちらが負担するかを規定している。

次に掲げる審査項目の採点について、以下の取り扱いとする。

- ・ 4-①経費の節減効果について、債務負担行為額（3施設合計）と5年間の指定管理料合計額の差額を1,000千で除し、得られた数の小数点以下を切り上げた数（10点上限）で採点する。

公益財団法人久留米観光コンベンション国際交流協会＝0点

- ・ 4-④類似施設の運営実績について、募集要項等において類似施設の定義を特に定めていないことから、各委員の判断に委ねることとする。

（4）候補者の決定

各委員の採点表を回収し、事務局による内容確認後、集計結果を提示。

【委員長】集計結果に基づき、公益財団法人久留米観光コンベンション国際交流協会を優先交渉権者と決定したいと思うが、いかがか。

<<全員了承>>

3 その他
特になし

4 閉会